

私の研究集会は、「ウェビナー機能」を使う？「通常ミーティング」にする？

Zoom によるオンラインでの RIMS 共同研究(グループ型)(公開型)、総合研究セミナーなどで、

- ・「ウェビナー機能」を利用するのか
- ・「通常ミーティング」のままにするのか

についてお悩みの方のために、ケース別の「おすすめ」をわかりやすくまとめました。

ミーティングが良いケース

参加者の顔を見て、議論を深めたい！…ミーティング

(説明)ウェビナーでは、「視聴者」は「カメラ」機能(ボタン)がないため、基本的に顔が見えません。

(主催者や講演者は「パネリスト」なのでカメラ機能がある。)

顔を見て議論したい場合は、ミーティングが良い。

参加者と質疑応答を活発にしたい！…ミーティング

(説明)ウェビナーでは、「視聴者」は「マイク」が強制ミュートになっていて、顔も見えないので、質疑応答の活発化が難しいようです。(どうしても一歩通行的になってしまう。)

ブレイクアウトルームを活用して議論を深めたい！…ミーティング

(説明)ウェビナーでは、「ブレイクアウトルーム」機能がありません。例えば小グループにわかれて議論が必要な時、ブレイクタイム時にちょっとした議論がしたい時、などにブレイクアウトルームを活用したい場合は、ミーティングの方が良い。

誰が参加しているか、参加者全員が知りたい！…ミーティング

(説明)ウェビナーでは、「視聴者」は「講演者(パネリスト)」の講演映像等のみを視聴するだけで、他に参加者が何人いるのか、だれが参加者してるのか、など全く情報がありません。一人で講義を受けている感じになります。

<結論>「ミーティング」は、「グループ型」など「**議論を活発にしたい場合**」に適している。

ウェビナーが良いケース

広く、いろんな人に参加してもらいたい！…ウェビナー

研究集会のホームページに Zoom の URL を載せたい！…ウェビナー

Zoom の迷惑行為を可能な限り防ぎたい！…ウェビナー

当日参加者も OK としたい！・・・ウェビナー

「待機室」をなくしてできるだけシンプルにしたい・・・ウェビナー

(説明)ウェビナーでは、参加者を「視聴者」にすることで、カメラ機能の不使用、マイク機能の強い制限が可能なので、いわゆる「迷惑行為(Zoom bombing)」を受けにくくなります。

そのため、ホームページで広く当日の Zoom の URL を周知したり、開催期間中の「飛び入り参加」が出来たり、「待機室」機能を使わなくても安心できる「オープンな研究集会」の開催が容易になります。

<結 論>「ウェビナー」は、「公開型」、「総合研究セミナー」など、「参加者を広く募りたい場合」「チュートリアルのような講義形式の場合」「待機室などを作らず簡単に開催したい場合」に適している。

なお、ミーティングの場合でも、待機室をなくしたり、URL をホームページに掲載することは不可能ではありません。

逆に、ウェビナーの場合でも、マイクのコントロールやチャット機能を活用して、活発な質疑応答を促す方法はございます。

詳細は、RIMS 担当者との打合せにて、Zoom 設定の内容をご相談願います。